

囲いやま森の会 活動記録

2008.2.5 野口 功

日 時： 2008.2.2 (土) 10時～ 天気： 曇り

記録・写真： 山田幸子

観察記録

先日は、囲い山にも雪が積もりました。いつも見慣れた風景が、まるで違ったものに見えてきます。今頃は、1年で最も寒さが厳しい時期です。草木は葉を落とし、虫たちは越冬場所にもぐり、寒さと乾燥に耐えながら春を待ちます。でも日溜まりに目を向けてみてください。可愛らしい花を咲かせている植物が見つかりますよ。

寒さの中、精一杯咲いている小さな花たちを観察してみたくて、天気の良かった1月24日に、一人で囲い山の観察をしました。神社側の広場でオオイヌノフグリ・コハコベ・ヒメオドリコソウを見つけました。傍には、ホソヒラタアブも飛んでいました。記録の写真はその時のものです。（雪とアオキの写真は、1月17日雪の日の朝撮影しました。）

今日の囲い山は寒かったので、花の開き方がひっそりとしていました。しかしそく観察してみると、イヌザクラの冬芽は赤く色づき、シュンランの花芽もしっかりと伸びてきました。枯れ葉の下では、スミレの葉が青々と元気に息づいていました。生命の力強さを感じたひとときでした。

茨木のり子さんの詩も合わせてどうぞ。

はたから見れば嘲笑の時代おくれ けれど進んで選びとった時代おくれ もっともっと遅れたい 何か起ろうとも生き残れるのはあなたたち まとうとも思わず まとうに生きているひとびとよ
「時代おくれ」より

- 1) オオイヌノフグリとはちょっと可哀相な名前です。大きなイヌの陰嚢、果実を見れば納得できますが、でもこんなに可愛い花なのに……皆さんならどんな名前を付けますか？花びらは4枚ですが、基の部分でくっついている合弁花です。虫に花粉を運んでもらう虫媒花ですが、虫がこないときは、おしべが自分で動いて、めしべに花粉をくっつけます。
- 2) ハコベは、春の七草のひとつです。「セリ・ナズナ・オギョウ(ハハコグサ)・ハコベラ(ハコベ)・ホトケノザ(コオニタビラコ)・スズナ(カブ)・スズシロ(ダイコン)これぞ七草」と歌われています。ハコベの花びらは10枚に見えますが、よく見ると5枚です。めしべの先はどうでしょう。3つに分かれいたら、ミドリハコベかコハコベ、5つに分かれいたらウシハコベです。ちなみに写真はコハコベです。
- 3) ヒメオドリコソウは春になると、道端に大群落をつくります。今は囲い山の日溜まりでちらほら咲いています。ヨーロッパ原産で、明治時代に東京で発見されました。全体の姿がオドリコソウ(好きな植物です)に似ていますが、小さいのでヒメオドリコソウと呼ばれています。
- 4) 鳥の羽が見られました。この羽の持ち主を想像してみるのも、楽しいものです。この羽のもとで、どんな事件が繰り広げられたのでしょうか。
- 5) イヌシデの木の名札の裏に、ミノムシがいました。風雨や寒さを防ぐ知恵と思われます。テントウムシやアゲハのサナギ、ジョロウグモの卵のうなどは、どこに隠れているのでしょうか。

開花植物

草本 オオイヌノフグリ・コハコベ・ヒメオドリコソウなど

実のついている植物 キヅタ・マサキ・アオキ・ヤツデ・ネズミモチ・マンリョウなど

鳥 シジュウカラ・アオジ・ウグイス・ヒヨドリ・コゲラ・エナガなど

キノコ スエヒロタケ・カワラタケ・エノキタケ・ハチノスタケ・アラゲキクラゲなど

囲いやまの森

2008.2.2(土) 山田幸子

雪の森の中も素適です。春の目覚めを期待する小さな花が見られます。南広場にはコハコベがジュウタンのようです。

春の七草

